

# 行政視察報告書

平成29年 11月20日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員 坂本 公明 議員 原田 てつよ  
 議員 三谷 渡 議員

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

## 記

### 【1】

住 所	静岡県沼津市美幸町16-1
電 話	055-934-4711
視察案件	沼津市：小中一貫教育について（施設一体型小中一貫校）
期 日	平成29年11月6日（月） 13:30～15:00
応 対 者	沼津市議会（渡辺博夫副議長），教育委員会指導主事（本杉 淳）
視察状況	別添写真の通り
訪問施設	沼津市議会内（会議室）。
概 要	<p>1 沼津市の小中一貫教育（施設一体型小中一貫校）の取組みについて。</p> <p>① 沼津市小中一貫校開校に至る経緯。</p> <p>市内静浦地区では、少子化に伴い児童・生徒が減少し静浦小学校及び静浦東小学校で複式学級の発生が懸念されていた，また静浦中学校が山の中腹に位置しており，通学路の落石やがけ崩れなど，生徒への安全対策が課題となっていた。静浦地区自治会やPTAから小中一貫校設置の要望が有り，平成19年6月に「静浦地区小中一貫校検討委員会」を設置し検討を進め，平成26年4月1日に施設一体型小中一貫校として開校した。</p>

<p>② 小中一貫校推進委員会の設置について。</p> <p>小中一貫校推進委員会は、学識経験者・自治会正副会長・静浦小中学校 PTA 正副会長 保護者代表・小中学校校長から構成され、年3～5回開催され様々な協議がなされた。 小学校の先行統合、通学路、防災対策、学校の跡地利用など課題への対応のほか 校名など作業部会・制服作業部会・地域交流作業部会・を設置具体的な協議を行った</p>	<p>③ 地域や保護者等の意見・声</p> <p>地元からの要望に基づいての、小中一貫校の設置に至ったものの、一部地域での反対 の声もあり、特に校地が海岸線沿いにあることから、平成23年の震災発生後には 防災関連の意見・声を多くいただいた。 このことから、子供たちの安全を最優先に考え、校舎の設計変更や避難路の設置など 地震・津波などへの対策を行った。</p>

<p>概要</p>	<p>2, 小中一貫校の教育目標「大きな志を抱き挑戦し続ける人づくり」</p> <p>たくましく生きるための健康や体力、豊かな人間性を身に付けた子供は、様々な人た ちとの交流や体験活動を通じて、大きな志（社会のために役立とうという目標）を 育むことにより、主体的に学び、常に高い目標に挑戦する子供を目指して、9年間で 4-3-2の段階に区切り、「9年間の連続性」「ことば」「地域」を教育活動目標とする</p> <p>1～4年（初志部）あこがれを抱き繰り返しがんばり めあてを達成する子供。 5～7年（立志部）夢を描き意欲的に取り組むことで目標を達成する子供。 8～9年（大志部）大志を抱き自分を信じてやり抜くことで自己実現を果たす子供</p> <p>3. 教科などの9年間の縦のつながりと、教科間及び学校行事などの横のつながりを重視 した教育の実践。</p> <p>① 体・徳・知をバランス良く育むため、9年間で付けたい力を明確にし、主体的に 学び、活動する子供を育てる教育課程を編成する。</p> <p>② バランスのとれた「健康・体力」「豊かな人間性」「確かな学力」の育成これらの 基礎の上に立ち、習熟度別少人数指導など、のきめ細かな指導により、どの子にも 確かな学力を保証する。</p> <p>③ 9年間の学びを共有するシラバス（指導方針）の作成</p> <p>全教職員で授業づくりの考え方を共有し、公開することで、子どもと保護者は 9年間の学びの見通じがもてる。</p>
-----------	---

	<p>④ 小中一貫校の特色を生かした日課・週課の設定</p> <p>多くの教師がどの学年の授業も担当できる体制づくり，異学年の交流授業・合同授業や9学年で取り組む学校行事の設定や，全校で読書に取り組む時間の設定。</p>
	<p>4 9年間の連続性を図るための（4・3・2）制について</p> <p>① 子どもの育ちを重視した区分けで，中1ギャップの解消や三回の最上級生の体験によるリーダーシップの育成が図れる。</p> <p>② 小中から集まった教職員の，教育のベクトルをそろえる為のツールとして「シラバス」を活用し，1年生から教科担任制を導入している。</p> <p>③ 教員のほとんどが小中両方の免許を持ち，全学年にて教科担任制を導入している。</p>
感想	<p>1 どの地方自治体においても少子化が進展し，児童・生徒・教が激減している。この現状を踏まえ，2つの小学校で複式学級の発生が，懸念されることから，両地区の自治会やPTAからの強い要望が有り，「小中一貫校検討委員会」を設置し検討してきた中，開校までに，7年間費やしている。</p> <p>2 地域自治会・保護者等関係者，及び関係機関（行政・教育委員会）など課題解決に向け問題意識を共有し，粘り強い取り組みと，それぞれ関係者の熱意・総意が必要であると感じられた。又現場で直接かかわりの大きい，教職員の理解・協力が必要不可欠であると感じる。</p> <p>3 児童・生徒の通学手段として，路線バスを三割利用し補助金で賄っている。本市は施設分離型の，小中一貫校になると思われるが，通学方法は安全第一を考慮する。</p> <p>4 小中一貫校の設置検討は笠岡市の場合，学校規模適正化計画と併用，取り組みが必要。</p>
添付書類	

【2】

住 所	神奈川県三浦市岬陽町4番
電 話	046-882-1111
視察案件	病院事業の経営改善の取り組みについて
期 日	平成29年11月7日 13:30~15:00
応 対 者	三浦市議会事務局 (岡部課長), 三浦市立病院 (佐藤局長, 石塚課長, 矢尾板課長)
訪問施設	三浦市立病院
概 要	これまでの公立病院改革の取組と病院事業の経営改善について
概 要	<p>1 公立病院経営改革について。(公立病院改革の推進)</p> <p>① 経営の効率化 (経営指標の数値目標を自治体が独自に設定, 経費削減や収入確保)</p> <p>② 再編・ネットワーク化 (病院の統合や基幹病院と日常的な医療病院とに再編)</p> <p>③ 経営形態の見直し (民間的経営手法等を導入)</p> <p>2 地方公営企業法の全部適用・経営効率化</p> <p>病院の存続さえ危ぶまれる経営状況から, 地方公営企業法の全部適用化の取組を契機として, 医師の招へいや地域医療連携など, 多岐にわたる経営改善策を実践することにより, 住民ニーズに応えた医療の提供と経営健全化を図る。</p> <p>3. 医師不足の解消に向けた取り組みについて</p> <p>病院の理念に同調する医師からの応募を増やすため, 病院の「目指すべき姿」などのアピールを実施した。</p> <p>4 公立病院としての役割の明確化</p> <p>一次及び二次救急を担う, 自己完結型から地域完結型に転換。それぞれの医療機関や福祉施設が, 得意分野を活かして機能や役割を分担するとともに, 地域的なネットワークにより, 医療・介護サービスを提供できるよう, 地域完結型医療への転換を図る。</p> <p>5 経営形態の見直しに係る取組について</p> <p>地方財政法上の資金不足の発生していた状況で, 改革プランを作成する際, より明確にスピーディーに改革を行っていく必要がある, 雇用と将来に関する不安を一気に加速させず, 民間人から迎えた病院事務長を中心に, 長年身についた習慣や考え方は経営形態を一掃できるものでなく, 病院で働く職員全員が経営に参画する意識改革</p>
感想	<p>経営形態の見直し (地方公営企業法の全部適用) に移行することで, 人事・予算などに係る実施的な権限が, 新たな管理者に付与され, 経営責任者に自立的な経営を求めることで権限と責任が明確となる。人事考課に賃金配分に踏み込むことで「やった者が報われる制度」人事制度が必要である。笠岡市においても一日も早い, 病院事業管理者の選任による自立的経営を求めることで権限・責任を果たしていただきたい。</p>

【3】

住 所	
-----	--

住所

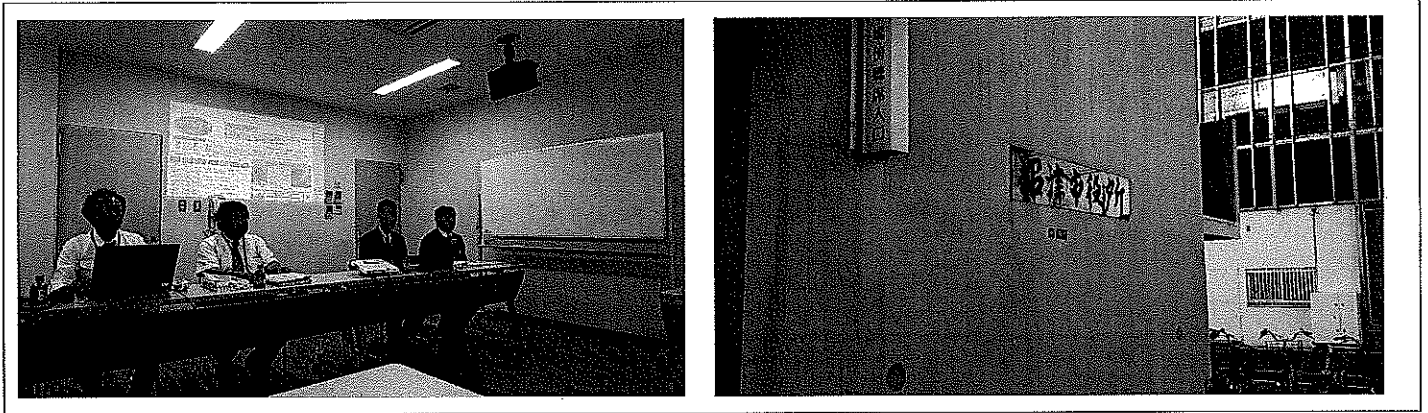
電話	神奈川県川崎市川崎区宮本町1番地
視察案件	認定こども園の取組状況について (幼・保一元化について)
期 日	平成29年11月8日 (水) 10:00~11:45
応 対 者	川崎市こども未来局子育て推進部 (太田課長, 岡田課長補佐)
訪問施設	川崎市役所議会事務局内会議室
概 要	別紙写真参照
概 要	1 川崎市の幼稚園・認定こども園の概況について 幼稚園 (81園)・認定こども園 (4園)・・・幼稚園, 認定こども園ともすべて私立。 ① 認定こども園移行が進まない (子ども・子育て支援事業計画との乖離) ② 幼稚園入園児童の減少 ③ 幼稚園活用による待機児童対策の推進 (幼稚園における預かり保育の長時間化・ 通年化及び受け入れ年齢の拡大の促進)
	2 認定こども園とは 保護者の就労などを問わず, 就労前の子供に幼児教育・保育を一体的に提供すると ともに, すべての子育て家庭を対象に子育て相談や, 親子の集いの場の提供など地域 における子育て支援を実施する学校及び児童福祉施設。
	3 認可保育所とは 保護者が就労などの為, 常時家庭で保育できないお子さんを, 保護者に代わって保育 することを目的とした児童福祉施設。
	4 認可外保育事業とは 認可保育所等に申し込みをし, 入所要件を満たしながらも入所できない生後6か月 ~3歳未満のお子さんをお預かりする施設。
感想	川崎市と本市では自治体規模・環境に大きな隔たりがありあまり参考にならなかったが 少子化の中, 社会全体・地域全体で子育て支援し「子供たちの笑顔のあふれる街」を 目指して, 保険・医療・福祉・教育など様々な分野での, 充実した子育て支援策の取組 が必要である。2年数月後には, 笠岡市では初めての認定こども園の開園が予定されて いますが早期の開園に向けた検討・準備が必要です。

【1】

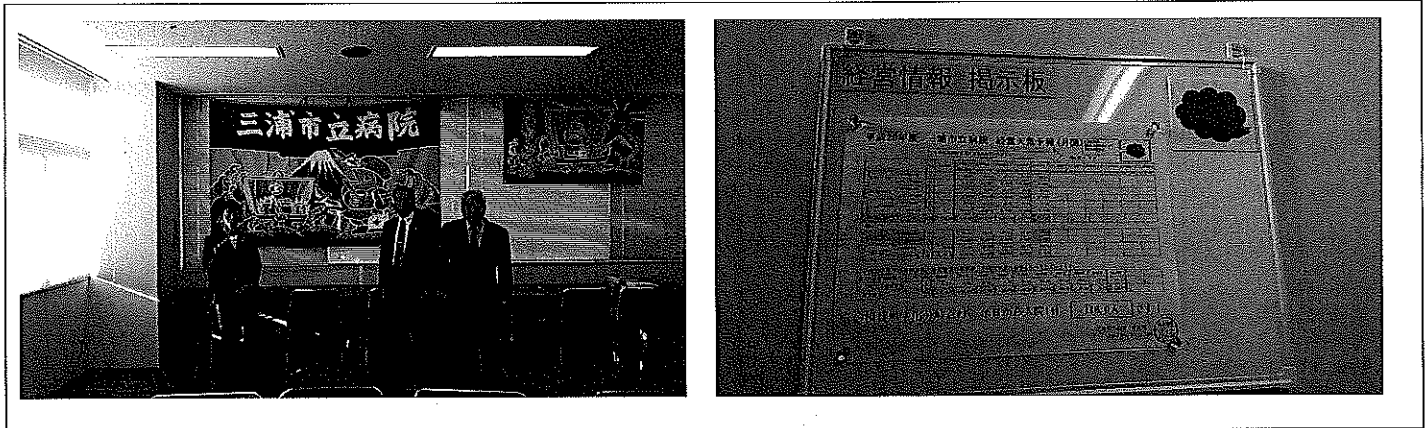
住 所	
電 話	

# 視察状況写真

## 静岡県沼津市議会関係



## 神奈川県三浦市議会関係



## 神奈川県川崎市議会関係

